

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077600130		
法人名	医療法人 三井会		
事業所名	グループホームくましろ		
所在地	福岡県久留米市北野町八重亀391番地1 (電話)0942-23-4323		
自己評価作成日	令和6年1月1日	評価結果確定日	令和6年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームは、自然豊かな環境であり、西鉄甘木線金島駅より徒歩3分という利便性のいい場所に立地している。生活そのものをリハビリと捉え、洗濯物たたみや掃除等できることは一緒にしている。日課は特になく、お一人おひとりの生活リズムに合わせ、これまでの生活にできるだけ近いものになるよう支援している。入所後もかかりつけ医を継続し、協力医療機関と連携を図りながら健康管理を行っている。ご本人やご家族のご希望があればホームで看取りを行い、最期までその人らしく過ごせるよう支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和6年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

田園風景がある閑静な場所の4階建ての鉄筋の建物の事業所である。近くには、経営母体の病院や関連施設がある。事業所内には日中は看護師が在中しており、何かあれば、経営母体の病院と連携を取り、支援している。看取りにも力を入れており、家庭的な環境で看取りができるように配慮している。法人内の複合施設等の利用者と事業所の利用者が知り合いであることが多く、職員が付き添いながら、会にいたり、訪問してもらったりして、関係が継続できるように支援している。利用者や家族の要望を汲み取り、その人らしく、普通の生活ができるように支援している事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、ホーム開設時に職員が全員で考案し作った「皆さんとの絆」を大切に今も受け継ぎ、毎日朝礼で理念の唱和を行っている。理念は各ユニットに掲示している。	全職員で考えた事業所独自の理念がある。基本方針の中に、地域密着に関する内容が含まれている。リビング等の目につきやすい場所に理念を掲示し、朝礼や終礼時に職員は唱和している。今までの普通の生活が継続でき、その人らしく生活できるように、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の前は、地域活動には、積極的に参加していた。年間を通して清掃活動を始めとし、地域行事（茅の輪くぐり、夜渡等）に参加したが、新型コロナウイルス流行により、地域行事等も中止もしくは、感染予防のため参加出来ていない。今後は、新型コロナウイルスも5類に移行になり、普通の暮らしに戻していく方針。	校区のまちづくり振興会から地域行事の案内があり、防災訓練等に参加している。感染状況が落ち着いたら、事業所の行事に地域住民へ参加の声かけをする予定である。近隣の方から手作りのお手玉の差し入れや、野菜のおすそ分けがあり、日頃より地域住民の方と関わる機会がある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体の取り組みとして、出前講座・認知症カフェ等を開催し、当ホームも参加している。また、地域包括支援センターと連携し認知症高齢者の方が、安心して暮らせるように意見交換会や「北守るっ隊」を北包括全域で取り組み活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、行政や包括職員、民生委員や自治会長等に参加をいただき、近況報告を行い、ご意見をいただいている。頂いたご意見は、会議などにて職員に伝えている。	他事業所と合同で、2ヶ月に1回開催している。会議では利用者の状況や活動内容、事業所の取り組みについて、報告している。委員から皮膚ケアについて意見があり、職員と検討して対策を実施する等、会議で出た意見をサービスの向上に活かすようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、報告や相談を行っている。久留米市主催の研修会や事業所協議会の交流会においてすぐに相談できる関係作り努めている。	日頃から行政とメールや電話で連絡・報告・相談をしている。行政からの依頼で出前講座の講師を引き受ける等、他関連施設と協力しながら、行政事業を受託している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回の身体拘束適正化委員会を開催し、管理者・委員（一般職員）で施設ラウンドや聞き取りを行い会議を開催している。会議内容については、ユニット会議や閲覧にて報告。施錠については、夜間のみ防犯のため行っているが昼間は自由に入出りできるようにしている。	日中は玄関の施錠はしていない。職員は、外出傾向がある利用者の所在と状況確認を行い、外に出たい気持ちが強い時は、他フロアや庭に散歩に行き、気分転換できるようにしている。年2回、研修を実施し、全職員が身体拘束について学んでいる。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会と同日に高齢者虐待防止委員会を開催。虐待研修は年に2回と新人職員は入職後に研修を受講。更に、法人介護事業部が定期的に来所し、職員面談（ヒヤリング）を行っている。また、月1回産業医ラウンド・年1回ストレスチェックを行い、ストレス解消に向けて働き方改革に取り組んでいる。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は、勉強会を行っている。職員は詳しい説明までは出来ないが、こういう制度があることや相談窓口をお伝えできるようにしている。また、管理的立場の者は、権利擁護推進員養成研修を修了し、職員への指導として、身体拘束や高齢者虐待防止等に役立っている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、契約時に家族に対してパンフレットを用いて説明している。パンフレットは、玄関に準備している。年1回、全職員が権利擁護に関する研修を受講している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設入居については、ご家族は悩んだり迷われたりされるので、しっかり時間をかけてお話を聞く様にしている。また、契約時だけでなく入居後も状態報告だけでなく積極的に声かけを行っている。改まってよりも何気ない会話の中から、ご本人やご家族の不安や要望等を汲み取るよう努力している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍以前は、毎月介護相談員の方が来られ利用者に声をかけられていた。ご家族へは、面会時等に全職員が積極的に声かけを行い、ご意見やご要望をお聞きするよう努めている。直接言いつらい時は、行政機関の窓口をお伝えしており、いつでもご連絡されるようお伝えしている。	日常的に利用者の要望や思いを確認している。利用者が好きな食べ物を聞いて、家族に持ってきてもらったり、一緒に食べたいものを作る等、利用者の要望を取り入れている。家族には、面会時や電話で、状況報告時に要望を聞いている。「より専門性のある定期的な口腔ケアをしてほしい」と要望があり、訪問歯科診療で定期的に診てもらおう等、できる範囲で取り入れている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や勤務時間中に統括や管理者が意見を聞くようにしている。話しやすい雰囲気作りを心がけ、職員の意見は、否定せず聞くようにしている。	ユニット会議前に、利用者の介護や業務内容で、気になることをノートに記載している。それを基に、管理者会議の伝達事項を含めて、ユニット会議をしている。年2回、人事考課をしている。新人職員等には、管理者から声かけをして、職員が意見を言いやすくなるように心がけている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回全職員がスキルアップシートを作成し、それをもとに面談を行っている。普段と違う様子が見られる時には個別に話を聞いている。休みはほぼ希望どおり入れており、急な勤務変更にも対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	グループホームは、家庭的な生活の場なので、年齢や性別、資格や経験にとらわれず幅広く採用している。趣味や特技をホーム内外で生かして活動して頂いている。	採用選考は、法人での面接後、管理者との面談を行い、採用決定をしている。定年はあるが、希望あれば、就労継続が可能である。一定の勤務年数になったら、資格取得や認知症実務研修等の声かけをしている。それぞれの職員が、働きやすいように、職場環境を整え、職員の得意分野を活かせるようにしている。外国人技能実習生の受け入れをしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権の意識付けの為、内部研修を行っている。外部研修もチラシ等を回覧し希望者についてはできるだけ参加出来るように勤務調整している。	年1回、全職員が人権に関する研修を受講している。今年は認知症の方の権利擁護について学んでいる。研修報告書を保管している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での新人研修や接遇、感染症等の研修に参加している。施設内外研修は、ZOOMを使用している。また、今年度より外国人技能実習生を受け入れ、職員のスキルアップに繋げるようにしている。学生の実習も積極的に受けている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業者協議会の研修会や交流会、久留米市の研修会などに参加し情報交換や意見交換を行い、質の向上に努めている。コロナ感染状況に応じて電話やZOOMなどを使用している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの際には、ご家族だけでなくご本人にも見学をお願いしている。どんな些細なことでも心配事を話していただき、どういう生活を送りたいかお聞きし、ホームとしてできる事をお伝えしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族が心配されている事や思いを丁寧にお聞きし、少しでも安心してご入居できるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族だけでなく、関係機関からも情報収集し、ホーム内で話し合いをして支援方法を決めている。入居申し込みの際には、他のサービスをお伝えし、ご本人に合う施設が選択できる様お話ししている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬う気持ちをもって接する様心がけている。洗濯物干しやたたみなどできることを一緒に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	人生の先輩としての気持ちを忘れず、声かけ等も気を付けている。携帯電話をお持ちの方は、ご家族からの連絡時間を確認し、ご本人が出来るだけ取れるよう対応している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も地域行事に参加したり買い物に行ったりしている。病院受診の際には、知り合いの方とお話しされたり、以前担当されていた民生委員さんやご友人が尋ねて来られたりされている。	利用者の馴染みの人や場所について、利用者や家族から情報を得ている。コロナ禍前は、家族の協力を得て、馴染みの場所や買い物等、外出していた。現在は、知人が会いに来たり、電話を支援する等、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他のユニットへ行かれ、気の合う方と会話されたり、レクレーションを楽しまれている。入居者同士分かる人が分からない方へ教えたり、困っていることを手伝ったりされている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もホームに来られ思い出話をされている。退居された方からご近所や知人の方の相談をお受けする事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族からご希望をお聞きしている。意思表示が困難な方は、表情や言動で汲み取っている。	職員は利用者の想いや意向を把握するため、表情や行動等にも注意を払いながら、傾聴を心がけている。意思疎通が困難な利用者には、家族から情報を得て共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からこれまでの生活歴をお聞きしている。関係機関やそれまで生活されていた近所の方等からも情報を頂いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	法人全体で入居者情報の共有化（パソコン管理）を実施。更に、ホーム独自の生活チェック表を活用し、排泄や食事の状況は把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には、普段の会話の中で聞き取りをしたり、表情等から少しでも汲み取って反映するようにしている。ご家族からは面会時に必ず要望等を聞き取りしている。毎月カンファレンスを行い、介護計画を作成している。	利用者の担当者は決めているが、介護計画の作成については、主にユニット会議でカンファレンスを行い、全職員が意見を出し合って作成している。最終とりまとめと作成は介護支援専門員が行い、日常的に閲覧できるようにしている。家族の同意については、面会時や電話で説明し、同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに経過記録や生活チェック表を記入している。気になることや変化があれば申し送りノートに細かく記入し全職員が目をとすようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望をお聞きし、話し合いながら支援している。病院受診やご自宅への送迎も行っている。ご家族との外出（食事や冠婚葬祭等）もコロナの状況に応じて対応しており、5類に移行してからは家族との外出・外泊も緩和している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の生活歴をご家族や関係機関等から聞き取りし、それまで利用されていたお店や場所を把握するように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医や緊急時の医療機関の確認を行っている。それまで診て頂いている主治医に継続して診ていただき、細かいことでも報告し、指示をもらって対応している。協力医療機関との連携も密に図っている。	入所時の面談において、かかりつけ医を決めている。運営法人が医療法人であり、緊急時の対応や看護師の配置による日常的な健康管理、病態管理、医療連携の説明を行い、利用者や家族が安心できるように配慮している。入所後の受診では家族の同行が難しい時は職員が同行している。受診後は家族に連絡・報告を実施している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が体調管理を行っている。主治医へ些細な変化も報告や相談を行い、指示をもらって対応している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、ご本人やご家族が不安にならないよう病院と連携をとっている。入院時は、面会に行ったり、洗濯物もホームで行っている。病院のカンファレンスにも必ず参加している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の事前確認書や看取り指針を提示し、ご希望に応じてホームでできることをお伝えしている。ご本人やご家族の要望を聞きながら、主治医や訪問看護と連携を図り、穏やかにご本人らしく最期を迎えられるよう支援している。	入所時に重度化した際の支援について説明を行っている。終末期については、病態や健康状態の変化時において、適宜、利用者や家族と話し合うことを大事にしている。現在も複数名の看取り期ケアと支援を実施している。職員は、看取りの重要性と支援にあたっての姿勢等、常に全職員で振り返りを行いながら、さらなる質の向上に努めている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成している。職員は、看護師による救命講習を受け、実践できる様にしている。来年度より、法人全体で全職員対象として、普通救命講習を開催予定。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体でBCP作成に取り組んでいる。現在は、災害マニュアル（火災・地震・水害）を基準に訓練計画を実施している。	年2回、うち1回は夜間想定を含めた火災・水難・地震の避難訓練を実施している。消防署の指導やエレベーターの保守点検業者による緊急時の操作対応研修を実施している。また、運営推進会議で地域の方々に訓練予定日の周知や参加の呼びかけを行い、地域の参加を得ながら訓練を実施している。非常用備品は事業所内に保管している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意思を大切に支援を心がけている。言葉遣いや声のトーン等に気を配ったり、親しみが慣れ合いにならないように気をつけている。トイレや更衣の際には、必ずドアを開けたり、声かけを行ってから介護するようにしている。	人前でのあからさまな介護や強制的な誘導等に注意し、利用者の意向や希望などを把握しながら、さりげない支援を心がけている。家族や外来者との会話の内容等を漏洩しない等、プライバシーの保護に努めている。日常的には、会議やユニットミーティングの際に、職員で確認し合ったり、適宜に管理者等から注意喚起を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りを心がけている。理解できるような言葉やコミュニケーション方法を用い、できるだけ自己決定を促している。また、地元の小規模サービスを利用しながら生活されていた身内の方や知人との交流が断ち切れぬように、ご家族の承諾を得て、ホームへの面会をお願いしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事時間は、全員同じでなくご本人のそれまでの生活リズムに出来るだけ合わせている。外国に住まれていた方は、生活習慣に馴染めないこともあり、YouTubeでジャズ等を流し、おやつを食べて頂いたりしている。また、フットケアを行い、寛いだ時間を入居者・職員と過ごしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容には、特に気をつけている。普段着る服も、ご本人が選んで頂けるよう支援している。外出の際には、お気に入りの服を選ばれている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が食事を楽しめる様提供者へ摂取状況や声をお伝えし、メニューに反映できる様話をしている。飲み物もコーヒーやジュース等を選ぶようにしたり、手作りおやつを提供したりしている。食欲が増すようおにぎり等個別対応したり、晩酌希望の方にはお酒を準備している。感染予防のため職員と一緒に食事は出来ていない。	食事の準備や配膳・下膳等、できる利用者には一緒に取り組んでもらっている。業者が毎日調理・配送してくるものを美味しく、楽しく食べることができるよう支援している。毎月の誕生会や季節ごとのイベント・行事では、日頃利用者から聞き取った好きな食べ物や食べたいものを手作りも含めて提供するようにしている。焼きそばや手作りケーキは大変好評だった。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を確認している。食事形態や水分のトロミなども状態に合わせて提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い、清潔を保つようにしている。うがいができない方は、ガーゼで口腔内残渣物を拭き取りしている。義歯は、週に2回洗浄剤に浸けている。口腔内で気になることがあれば、訪問歯科（協力医療機関）へ相談報告している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分で意思表示は出来ない方の動きやしぐさを見逃さないようにしたり、排泄チェック表により、排泄間隔を確認し、出来るだけトイレ誘導を行っている。	職員はさりげない排泄の支援を心がけている。尿意のない利用者には、声かけを通して支援している。排泄での移動や動作では、できることは自分でやらせ、機能維持の視点を大事にした支援を行っている。排泄時の羞恥心やプライバシーへの配慮にも努めている。ベッドでの生活を送っている利用者や夜間の移動が難しい利用者には、職員で検討し、利用者や家族の同意のもと、おむつやパットを使用している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便状況を確認し、腹部マッサージを行ったり牛乳やバナナなどを提供し、出来るだけ薬を使用せず自然排便できる様努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ユニットバス、特殊浴槽等を活用しながら、利用者の状態に応じた入浴を楽しんで頂けるようにしている。拒否がある時は、時間をかけて声かけしたり、他の職員と交代したりしている。	入浴の計画的実施は行わず、利用者の希望を聴いて、体調を考慮していつでも入浴できる体制を整えている。体調不良により、清潔保持が難しい場合には、清拭を行うこともある。入浴を望まない場合は時間をずらしたり、声かけの職員を変えたりと工夫しながら入浴機会の確保に努めている。また、大浴場では温泉の源泉が活用できるので、好きな利用者は利用されている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間も特に決めず、その方の生活リズムに合わせている。昼間も眠い時には居室で休まれたり、ホールでテレビを観たりと思いいいにゆっくり過ごされている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が行っている。飲まれている薬の作用や副作用が分かるように薬の説明書を介護職員も見られるようにしている。誤薬がないように準備や服薬時、服薬後トリプルチェックをしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやお盆拭き、ゴミ出し等出来る方は積極的に参加している。誕生日には職員の手作りケーキでお祝いしている。また、近所への買い物と一緒に出かけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までは、新型コロナウイルスの状況に応じて、法人基準であるフェーズに基づき、規制したり緩和したりしていたが、今年の5月より5類に変更になったことで、以前のような普通の暮らしができるよう今後は活動していきたい。	感染対策のため、外出は若干、控えている。その中でも、事業所内を散歩したり、他のユニットへの訪問交流する等している。また、季節の花見ドライブや近くのコンビニへの買い物同行支援も実施している。自宅や家族の家での外泊もある。かかりつけ医や専門科への受診時は、家族も含めた外出機会となっている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方は、少額のお金を持たれている。買い物は、職員と一緒に出かけ、好きなお菓子等を購入されている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方、ホーム電話を活用される方と職員はその都度対応しており、話せる方はご自分で話されている。。遠方の方で面会が難しいご家族には、お手紙（ホーム会報誌等）で近況報告したり、お電話にてお伝えしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節の飾りをしたり、ソファを置いてゆっくり過ごせるようにしている。温湿度計を置いて空調管理を行っている。光は、カーテン等で調整している。匂いは、こもらないように気をつけている。	利用者が作成したぬり絵等を位置や間隔を考慮して掲示を行っている。テレビの音量や日差し対策等も配慮している。食事の場面やくつろぎの時間、みんなで楽しむとき等、場面に合わせた音楽を提供している。家族からいただいた花を飾る等、常に安全・安心に気を配り、家庭的な雰囲気づくりに努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファやテレビを置いてゆっくり過ごせるようにしている。入居者同士会話したり、懐かしい音楽や時代劇等を観たり、新聞を読んだりして過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にはご本人やご家族にそれまで使われていたお部屋のベッド等の配置をお聞きし、出来るだけそれに近い環境を作るようにしている。馴染みの物をお持ち頂くようお願いしている。2階の入居者は、宗教の関係で持ち込みや飾り等の制限がある。	備え付けの家具だけでなく、使い慣れた馴染みの家具等の持ち込みが可能であることを入所時に説明し、持ち込んでもらっている。家族が面会時に持ち込むお祝いの花や手作りの品等も取り入れ、一緒に居心地の良い居室づくりを心がけている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、廊下、居室等全てバリアフリーになっている。また、廊下には手すりを設置しており、安全に移動できるようにしている。トイレや浴室には、分かりやすいように大きく表示している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、ホーム開設時に職員が全員で考案し作った「皆さんとの絆」を大切に今も受け継ぎ、毎日朝礼で理念の唱和を行っている。理念は各ユニットに掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の前は、地域活動には、積極的に参加していた。年間を通して清掃活動を始めとし、地域行事（茅の輪くぐり、夜渡等）に参加してたが、新型コロナウイルス流行により、地域行事等も中止もしくは、感染予防のため参加出来ていない。今後は、新型コロナウイルスも5類移行になり、普通の暮らしに戻していく方針。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体の取り組みとして、出前講座・認知症カフェ等を開催し、当ホームも参加している。また、地域包括支援センターと連携し認知症高齢者の方が、安心して暮らせるように意見交換会や「北守るっ隊」を北包括全域で取り組み活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、行政や包括職員、民生委員や自治会長等に参加をいただき、近況報告を行い、ご意見をいただいている。頂いたご意見は、会議などにて職員に伝えている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、報告や相談を行っている。久留米市主催の研修会や事業所協議会の交流会においてすぐに相談できる関係作りに努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回の身体拘束適正化委員会を開催し、管理者・委員（一般職員）で施設ラウンドや聞き取りを行い会議を開催している。会議内容については、ユニット会議や閲覧にて報告。施錠については、夜間のみ防犯のため行っているが昼間は自由に入出りできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会と同日に高齢者虐待防止委員会を開催。虐待研修は年に2回と新入職員は入職後に研修を受講。更に、法人介護事業部が定期的に来所し、職員面談（ヒヤリング）を行っている。また、月1回産業医ラウンド・年1回ストレスチェックを行い、ストレス解消に向けて働き方改革に取り組んでいる。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は、勉強会を行っている。職員は詳しい説明までは出来ないが、こういう制度があることや相談窓口をお伝えできるようにしている。また、管理的立場の者は、権利擁護推進員養成研修を修了し、職員への指導として、身体拘束や高齢者虐待防止等に役立っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設入居については、ご家族は悩んだり迷われたりされるので、しっかり時間をかけてお話を聞く様にしている。また、契約時だけでなく入居後も状態報告だけでなく積極的に声かけを行っている。改まってよりも何気ない会話の中から、ご本人やご家族の不安や要望等を汲み取るよう努力している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍以前は、毎月介護相談員の方が来られ利用者に声をかけられていた。ご家族へは、面会時等に全職員が積極的に声かけを行い、ご意見やご要望をお聞きするよう努めている。直接言いつらい時は、行政機関の窓口をお伝えしており、いつでもご連絡されるようお伝えしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や勤務時間中に統括や管理者が意見を聞くようにしている。話しやすい雰囲気作りを心がけ、職員の意見は、否定せずに聞くようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回全職員がスキルアップシートを作成し、それをもとに面談を行っている。普段と違う様子が見られる時には個別に話を聞いている。休みはほぼ希望どおり入れており、急な勤務変更にも対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	グループホームは、家庭的な生活の場なので、年齢や性別、資格や経験にとらわれず幅広く採用している。趣味や特技をホーム内外で生かして活動して頂いている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権の意識付けの為、内部研修を行っている。外部研修もチラシ等を回覧し希望者についてはできるだけ参加出来るように勤務調整している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での新人研修や接遇、感染症等の研修に参加している。施設内外研修は、ZOOMを使用している。また、今年度より外国人技能実習生を受け入れ、職員のスキルアップに繋げるようにしている。学生の実習も積極的に受けている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業者協議会の研修会や交流会、久留米市の研修会などに参加し情報交換や意見交換を行い、質の向上に努めている。コロナ感染状況に応じて電話やZOOMなどを使用している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの際には、ご家族だけでなくご本人にも見学をお願いしている。どんな些細なことでも心配事を話していただき、どういう生活を送りたいかお聞きし、ホームとしてできる事をお伝えしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族が心配されている事や思いを丁寧にお聞きし、少しでも安心してご入居できるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族だけでなく、関係機関からも情報収集し、ホーム内で話し合いをして支援方法を決めている。入居申し込みの際には、他のサービスをお伝えし、ご本人に合う施設が選択できる様お話ししている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬う気持ちをもって接する様心がけている。洗濯物干しやたたみなどできることを一緒に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	人生の先輩としての気持ちを忘れず、声かけ等も気を付けている。携帯電話をお持ちの方は、ご家族からの連絡時間を確認し、ご本人が出来るだけ取れるよう対応している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も地域行事に参加したり買い物に行ったりしている。病院受診の際には、知り合いの方とお話しされたり、以前担当されていた民生委員さんやご友人が尋ねて来られたりされている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他のユニットへ行かれ、気の合う方と会話されたり、レクリエーションを楽しまれている。入居者同士分かる人が分からない方へ教えたり、困っていることを手伝ったりされている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もホームに来られ思い出話をされている。退居された方からご近所や知人の方の相談をお受けする事もある。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族からご希望をお聞きしている。意思表示が困難な方は、表情や言動で汲み取っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からこれまでの生活歴をお聞きしている。関係機関やそれまで生活されていた近所の方等からも情報を頂いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	法人全体で入居者情報の共有化（パソコン管理）を実施。更に、ホーム独自の生活チェック表を活用し、排泄や食事の状況をは把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には、普段の会話の中で聞き取りをしたり、表情等から少しでも汲み取って反映するようにしている。ご家族からは面会時に必ず要望等を聞き取りしている。毎月カンファレンスを行い、介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに経過記録や生活チェック表を記入している。気になることや変化があれば申し送りノートに細かく記入し全職員が目をとすようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望をお聞きし、話し合いながら支援している。病院受診やご自宅への送迎も行っている。ご家族との外出（食事や冠婚葬祭等）もコロナの状況に応じて対応しており、5類に移行してからは家族との外出・外泊も緩和している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の生活歴をご家族や関係機関等から聞き取りし、それまで利用されていたお店や場所を把握するように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医や緊急時の医療機関の確認を行っている。それまで診て頂いている主治医に継続して診ていただき、細かいことでも報告し、指示をもらって対応している。協力医療機関との連携も密に図っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が体調管理を行っている。主治医へ些細な変化も報告や相談を行い、指示をもらって対応している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、ご本人やご家族が不安にならないよう病院と連携をとっている。入院時は、面会に行ったり、洗濯物もホームで行っている。病院のカンファレンスにも必ず参加している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の事前確認書や看取り指針を提示し、ご希望に応じてホームでできることをお伝えしている。ご本人やご家族の要望を聞きながら、主治医や訪問看護と連携を図り、穏やかにご本人らしく最期を迎えられるよう支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成している。職員は、看護師による救命講習を受け、実践できるようにしている。来年度より、法人全体で全職員対象として、普通救命講習を開催予定。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体でBCP作成に取り組んでいる。現在は、災害マニュアル（火災・地震・水害）を基準に訓練計画を実施している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意思を大切にされた支援を心がけている。言葉遣いや声のトーン等に気を配ったり、親しみが慣れ合いにならないように気をつけている。トイレや更衣の際には、必ずドアを閉めたり、声かけを行ってから介護するようにしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りを心がけている。理解できるような言葉やコミュニケーション方法を用い、できるだけ自己決定を促している。また、地元の小規模サービスを利用しながら生活されていた身内の方や知人との交流が断ち切れないように、ご家族の承諾を得て、ホームへの面会をお願いしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事時間は、全員同じでなく、ご本人のそれまでの生活リズムに出来るだけ合わせている。YouTubeで体操をしたり、懐かしい歌を口ずさんでいる。また、フットケアを行い、寛いだ時間を入居者・職員と過ごしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容には、特に気をつけている。普段着る服も、ご本人が選んで頂けるよう支援している。外出の際には、お気に入りの服を選ばれている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が食事を楽しめる様提供業者へ摂取状況や声をお伝えし、メニューに反映できる様話をしている。飲み物もコーヒーやジュース等を選べるようにしたり、手作りおやつを提供したりしている。食欲が増すようおにぎり等個別対応したり、晩酌希望の方にはお酒を準備している。感染予防のため職員と一緒に食事は出来ていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を確認している。食事形態や水分のトロミなども状態に合わせて提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い、清潔を保つようにしている。うがいができない方は、ガーゼで口腔内残渣物を拭き取りしている。義歯は、週に2回洗浄剤に浸けている。口腔内で気になることがあれば、訪問歯科（協力医療機関）へ相談報告している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分で意思表示は出来ない方の動きやしぐさを見逃さないようにしたり、排泄チェック表により、排泄間隔を確認し、出来るだけトイレ誘導を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便状況を確認し、腹部マッサージを行ったり牛乳やバナナなどを提供し、出来るだけ薬を使用せず自然排便できる様努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ユニットバス、特殊浴槽等を活用しながら、利用者の状態に応じた入浴を楽しんで頂けるようにしている。拒否がある時は、時間をおいて声かけしたり、他の職員と交代したりしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間も特に決めず、その方の生活リズムに合わせている。昼間も眠い時には居室で休まれたり、ホールでテレビを観たりと思い思いにゆっくり過ごされている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が行っている。飲まれている薬の作用や副作用が分かるように薬の説明書を介護職員も見られるようにしている。誤薬がないように準備や服薬時、服薬後トリプルチェックをしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやお盆拭き、ゴミ出し等出来る方は積極的に参加している。誕生日には職員の手作りケーキでお祝いしている。また、近所への買い物と一緒に出かけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までは、新型コロナウイルスの状況に応じて、法人基準であるフェーズに基づき、規制したり緩和したりしていたが、今年の5月より5類に変更になったことで、以前のような普通の暮らしができるよう今後は活動していきたい。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方は、少額のお金を持たれている。買い物は、職員と一緒に出かけ、好きなお菓子等を購入されている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方、ホーム電話を活用される方と職員はその都度対応しており、話せる方はご自分で話されている。遠方の方で面会が難しいご家族には、お手紙（ホーム会報誌等）で近況報告したり、お電話にてお伝えしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節の飾りをしたり、ソファを置いてゆっくり過ごせるようにしている。温湿度計を置いて空調管理を行っている。光は、カーテン等で調整している。匂いは、こもらないよう特に気をつけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファやテレビを置いてゆっくり過ごせるようにしている。入居者同士会話したり、懐かしい音楽や時代劇等を観たり、新聞を読んだりして過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にはご本人やご家族にそれまで使われていたお部屋のベッド等の配置をお聞きし、出来るだけそれに近い環境を作るようにしている。馴染みの物をお持ち頂くようお願いしている。3・4階の入居者は、お仏壇をお持ちされ、手を合わせてある。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、廊下、居室等全てバリアフリーになっている。また、廊下には手すりを設置しており、安全に移動できるようにしている。トイレや浴室には、分かりやすいように大きく表示している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 みの 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、ホーム開設時に職員が全員で考案し作った「皆さんとの絆」を大切に今も受け継ぎ、毎日朝礼で理念の唱和を行っている。理念は各ユニットに掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の前は、地域活動には、積極的に参加していた。年間を通して清掃活動を始めとし、地域行事（茅の輪くぐり、夜渡等）に参加してたが、新型コロナウイルス流行により、地域行事等も中止もしくは、感染予防のため参加出来ていない。今後は、新型コロナウイルスも5類移行になり、普通の暮らしに戻していく方針。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体の取り組みとして、出前講座・認知症カフェ等を開催し、当ホームも参加している。また、地域包括支援センターと連携し認知症高齢者の方が、安心して暮らせるように意見交換会や「北守るっ隊」を北包括全域で取り組み活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、行政や包括職員、民生委員や自治会長等に参加をいただき、近況報告を行い、ご意見をいただいている。頂いたご意見は、会議などにて職員に伝えている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、報告や相談を行っている。久留米市主催の研修会や事業所協議会の交流会においてすぐに相談できる関係作りに努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回の身体拘束適正化委員会を開催し、管理者・委員（一般職員）で施設ラウンドや聞き取りを行い会議を開催している。会議内容については、ユニット会議や閲覧にて報告。施錠については、夜間のみ防犯のため行っているが昼間は自由に入出りできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会と同日に高齢者虐待防止委員会を開催。虐待研修は年に2回と新入職員は入職後に研修を受講。更に、法人介護事業部が定期的に来所し、職員面談（ヒヤリング）を行っている。また、月1回産業医ラウンド・年1回ストレスチェックを行い、ストレス解消に向けて働き方改革に取り組んでいる。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は、勉強会を行っている。職員は詳しい説明までは出来ないが、こういう制度があることや相談窓口をお伝えできるようにしている。また、管理的立場の者は、権利擁護推進員養成研修を修了し、職員への指導として、身体拘束や高齢者虐待防止等に役立てている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設入居については、ご家族は悩んだり迷われたりされるので、しっかり時間をかけてお話を聞く様にしている。また、契約時だけでなく入居後も状態報告だけでなく積極的に声かけを行っている。改まってよりも何気ない会話の中から、ご本人やご家族の不安や要望等を汲み取るよう努力している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍以前は、毎月介護相談員の方が来られ利用者に声をかけられていた。ご家族へは、面会時等に全職員が積極的に声かけを行い、ご意見やご要望をお聞きするよう努めている。直接言いつらい時は、行政機関の窓口をお伝えしており、いつでもご連絡されるようお伝えしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や勤務時間中に統括や管理者が意見を聞くようにしている。話しやすい雰囲気作りを心がけ、職員の意見は、否定せずに聞くようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回全職員がスキルアップシートを作成し、それをもとに面談を行っている。普段と違う様子が見られる時には個別に話を聞いている。休みはほぼ希望どおり入れており、急な勤務変更にも対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	グループホームは、家庭的な生活の場なので、年齢や性別、資格や経験にとらわれず幅広く採用している。趣味や特技をホーム内外で生かして活動して頂いている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権の意識付けの為、内部研修を行っている。外部研修もチラシ等を回覧し希望者についてはできるだけ参加出来るように勤務調整している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での新人研修や接遇、感染症等の研修に参加している。施設内外研修は、ZOOMを使用している。また、今年度より外国人技能実習生を受け入れ、職員のスキルアップに繋げるようにしている。学生の実習も積極的に受けている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業者協議会の研修会や交流会、久留米市の研修会などに参加し情報交換や意見交換を行い、質の向上に努めている。コロナ感染状況に応じて電話やZOOMなどを使用している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの際には、ご家族だけでなくご本人にも見学をお願いしている。どんな些細なことでも心配事を話していただき、どういう生活を送りたいかお聞きし、ホームとしてできる事をお伝えしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族が心配されている事や思いを丁寧にお聞きし、少しでも安心してご入居できるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族だけでなく、関係機関からも情報収集し、ホーム内で話し合いをして支援方法を決めている。入居申し込みの際には、他のサービスをお伝えし、ご本人に合う施設が選択できる様お話ししている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬う気持ちをもって接する様心がけている。洗濯物干しやたたみなどできることを一緒に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	人生の先輩としての気持ちを忘れず、声かけ等も気を付けている。携帯電話をお持ちの方は、ご家族からの連絡時間を確認し、ご本人が出来るだけ取れるよう対応している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も地域行事に参加したり買い物に行ったりしている。病院受診の際には、知り合いの方とお話しされたり、以前担当されていた民生委員さんやご友人が尋ねて来られたりされている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他のユニットへ行かれ、気の合う方と会話されたり、レクリエーションを楽しまれている。入居者同士分かる人が分からない方へ教えたり、困っていることを手伝ったりされている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もホームに来られ思い出話をされている。退居された方からご近所や知人の方の相談をお受けする事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族からご希望をお聞きしている。意思表示が困難な方は、表情や言動で汲み取っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からこれまでの生活歴をお聞きしている。関係機関やそれまで生活されていた近所の方等からも情報を頂いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	法人全体で入居者情報の共有化（パソコン管理）を実施。更に、ホーム独自の生活チェック表を活用し、排泄や食事の状況をは把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には、普段の会話の中で聞き取りをしたり、表情等から少しでも汲み取って反映するようにしている。ご家族からは面会時に必ず要望等を聞き取りしている。毎月カンファレンスを行い、介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに経過記録や生活チェック表を記入している。気になることや変化があれば申し送りノートに細かく記入し全職員が目をとすようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望をお聞きし、話し合いながら支援している。病院受診やご自宅への送迎も行っている。ご家族との外出（食事や冠婚葬祭等）もコロナの状況に応じて対応しており、5類に移行してからは家族との外出・外泊も緩和している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の生活歴をご家族や関係機関等から聞き取りし、それまで利用されていたお店や場所を把握するように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医や緊急時の医療機関の確認を行っている。それまで診て頂いている主治医に継続して診ていただき、細かいことでも報告し、指示をもらって対応している。協力医療機関との連携も密に図っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が体調管理を行っている。主治医へ些細な変化も報告や相談を行い、指示をもらって対応している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、ご本人やご家族が不安にならないよう病院と連携をとっている。入院時は、面会に行ったり、洗濯物もホームで行っている。病院のカンファレンスにも必ず参加している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の事前確認書や看取り指針を提示し、ご希望に応じてホームでできることをお伝えしている。ご本人やご家族の要望を聞きながら、主治医や訪問看護と連携を図り、穏やかにご本人らしく最期を迎えられるよう支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成している。職員は、看護師による救命講習を受け、実践できるようにしている。来年度より、法人全体で全職員対象として、普通救命講習を開催予定。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体でBCP作成に取り組んでいる。現在は、災害マニュアル（火災・地震・水害）を基準に訓練計画を実施している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意思を大切にされた支援を心がけている。言葉遣いや声のトーン等に気を配ったり、親しみが慣れ合いにならないように気をつけている。トイレや更衣の際には、必ずドアを閉めたり、声かけを行ってから介護するようにしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りを心がけている。理解できるような言葉やコミュニケーション方法を用い、できるだけ自己決定を促している。また、地元の小規模サービスを利用しながら生活されていた身内の方や知人との交流が断ち切れないように、ご家族の承諾を得て、ホームへの面会をお願いしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事時間は、全員同じでなく、ご本人のそれまでの生活リズムに出来るだけ合わせている。YouTubeで体操をしたり、懐かしい歌を口ずさんでいる。また、フットケアを行い、寛いだ時間を入居者・職員と過ごしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容には、特に気をつけている。普段着る服も、ご本人が選んで頂けるよう支援している。外出の際には、お気に入りの服を選ばれている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が食事を楽しめる様提供業者へ摂取状況や声をお伝えし、メニューに反映できる様話をしている。飲み物もコーヒーやジュース等を選べるようにしたり、手作りおやつを提供したりしている。食欲が増すようおにぎり等個別対応したり、晩酌希望の方にはお酒を準備している。感染予防のため職員と一緒に食事は出来ていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を確認している。食事形態や水分のトロミなども状態に合わせて提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い、清潔を保つようにしている。うがいができない方は、ガーゼで口腔内残渣物を拭き取りしている。義歯は、週に2回洗浄剤に浸けている。口腔内で気になることがあれば、訪問歯科（協力医療機関）へ相談報告している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分で意思表示は出来ない方の動きやしぐさを見逃さないようにしたり、排泄チェック表により、排泄間隔を確認し、出来るだけトイレ誘導を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便状況を確認し、腹部マッサージを行ったり牛乳やバナナなどを提供し、出来るだけ薬を使用せず自然排便できる様努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ユニットバス、特殊浴槽等を活用しながら、利用者の状態に応じた入浴を楽しんで頂けるようにしている。拒否がある時は、時間をおいて声かけしたり、他の職員と交代したりしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間も特に決めず、その方の生活リズムに合わせている。昼間も眠い時には居室で休まれたり、ホールでテレビを観たりと思い思いにゆっくり過ごされている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が行っている。飲まれている薬の作用や副作用が分かるように薬の説明書を介護職員も見られるようにしている。誤薬がないように準備や服薬時、服薬後トリプルチェックをしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやお盆拭き、ゴミ出し等出来る方は積極的に参加している。誕生日には職員の手作りケーキでお祝いしている。また、近所への買い物と一緒に出かけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までは、新型コロナウイルスの状況に応じて、法人基準であるフェーズに基づき、規制したり緩和したりしていたが、今年の5月より5類に変更になったことで、以前のような普通の暮らしができるよう今後は活動していきたい。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方は、少額のお金を持たれている。買い物は、職員と一緒に出かけ、好きなお菓子等を購入されている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方、ホーム電話を活用される方と職員はその都度対応しており、話せる方はご自分で話されている。。遠方の方で面会が難しいご家族には、お手紙（ホーム会報誌等）で近況報告したり、お電話にてお伝えしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節の飾りをしたり、ソファを置いてゆっくり過ごせるようにしている。温湿度計を置いて空調管理を行っている。光は、カーテン等で調整している。匂いは、こもらないよう特に気をつけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファやテレビを置いてゆっくり過ごせるようにしている。入居者同士会話したり、懐かしい音楽や時代劇等を観たり、新聞を読んだりして過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にはご本人やご家族にそれまで使われていたお部屋のベッド等の配置をお聞きし、出来るだけそれに近い環境を作るようにしている。馴染みの物をお持ち頂くようお願いしている。3・4階の入居者は、お仏壇をお持ちされ、手を合わせてある。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、廊下、居室等全てバリアフリーになっている。また、廊下には手すりを設置しており、安全に移動できるようにしている。トイレや浴室には、分かりやすいように大きく表示している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		